

山形市道の駅整備構想（概要版）

第1編 道の駅整備の背景

1. 道の駅の概要

道の駅は、**休憩機能**、**情報発信機能**及び**地域連携機能**の基本3機能が一体となった道路施設として国土交通省に登録された施設です。整備方法には道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類があります。基本3機能や整備方法については、以下のとおりです。

○基本コンセプト（基本3機能）

- 休憩機能**
24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- 情報発信機能**
道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などの提供
- 地域連携機能**
文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

整備主体と整備内容



2. 地方創生の拠点としての道の駅

①道の駅に期待する役割と山形市の課題

○交流人口の拡大～蔵王への観光者の減少～

現在、少子高齢化が進展し人口減少社会を迎えている中、地域経済を活性化させるためには、移住・定住を促進するのみならず、多くの観光客等を地域内に呼び込み、地域外からの消費・投資を促す必要があります。山形市の主な観光地への観光者数は、平成23年度には200万人を下回り、これは蔵王への観光者数が平成7年度に比べると約半数となっていることが大きな要因の一つであると考えられます。観光者数の推移は以下のとおりです。

今後、交流人口の拡大を図り地方創生を果たすためには、冬期間の誘客を充実させつつ、通年で蔵王への誘客を促進していくことが必要です。

	平成7年度	平成23年度	平成27年度
山形市への観光者数 (主な観光地： 蔵王・月山・向山等)	3,438,000人	1,851,800人	2,054,600人
蔵王への観光者数	2,267,300人	1,182,400人	1,112,600人

○持続可能な農業の振興～農業就業人口の減少と高齢化、低収益性～

近年、基幹産業の一つである農業は、農業者の高齢化や後継者不足による担い手の減少、農産物の価格低迷等により農業所得が減少するなど、取り巻く環境がますます厳しさを増しています。そのような状況を解消するためには、新規就農者等が農業により所得を確保し持続可能な経営を実践する環境をつくっていくことが必要です。



②山形市が整備する道の駅

○これまでの検討状況

①の課題や県内の既存道の駅の配置状況、高速道路との連携及び地区等からの要望等を勘案し、以下の4つの地域を候補地として調査検討を行いました。

山形JCT付近、山形中央IC付近、西公園付近、山形上山IC付近

その後、高速道路からの利便性、周辺道路交通量等により2カ所に選定
山形中央IC付近、山形上山IC付近の2カ所で具体的検討

○道の駅が担う役割

①の課題等を踏まえ、山形上山IC付近及び山形中央IC付近の道の駅には下記の役割をもって整備に向けた検討を進めます。

- ・**山形上山IC付近の道の駅(道の駅「(仮称)蔵王」)**
蔵王への登り口となり、山形市南の玄関口ともなる山形上山IC付近には、主に**交流人口の拡大**を図るため道の駅の整備を検討します。
⇒第2編で基本構想を示します。
- ・**山形中央IC付近の道の駅(道の駅「(仮称)山形中央IC」)**
東に蔵王、西に月山を望みながら土壌にめぐまれ古くから農業が営まれてきた山形中央IC付近には、主に**持続可能な農業の振興**を図るため道の駅の整備を検討します。
⇒今後、都市計画道路「樫沢山辺中線」等、周辺の道路整備の進捗等を勘案しながら具体的な検討を行います。

第2編 道の駅「(仮称)蔵王」基本構想

1. 道の駅「(仮称)蔵王」の整備目的

①山形市発展計画等における位置づけ

発展計画では、基本方針の一つに、村山地域の中核都市として「定住人口・交流人口の拡大を図り地域活性化のけん引力となる」ことを掲げており、道の駅を山形の魅力を体験・体感できる場、そして地域の活性化等に資する拠点施設として整備することとしています。

また、都市計画に関する基本的な方針を示した山形市都市計画マスタープランにおいても、観光・レクリエーション拠点の魅力を高めるまちづくりを推進するため、道の駅を整備することとしています。

《山形市発展計画》

重点政策②

～新しい人の流れによるまちの賑わいづくり～

施策①

～拠点施設等の整備による域内・域外交渉の促進～

取組①

～交流人口の拡大に向けた拠点施設の整備～

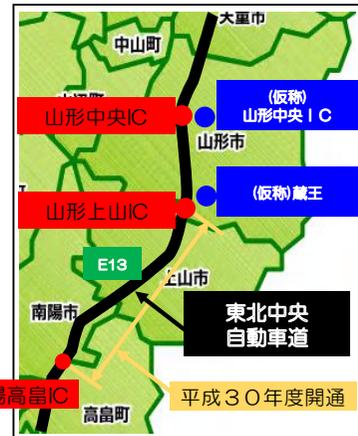
主要事業

～道の駅整備事業～

②東北中央自動車道の整備状況

平成30年度中に、東北中央自動車道の南陽高畠IC～山形上山IC間が開通する予定であり、首都圏等からの交通量の増大が予想され、山形市の南の玄関口となる山形上山IC付近に整備する道の駅の果たす役割が重要になります。

また、開通により山形～東京間の自動車等の運行経路が変化することも予想され、道の駅を整備することによって効果がより一層高められることが期待されます。



東北中央道(隣接区間) ※高速道路開通後1カ月の交通状況



出典：国土交通省

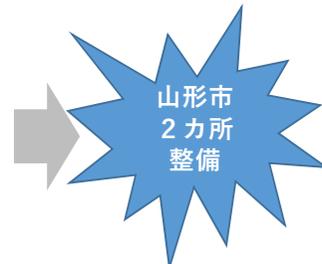
③山形県内の道の駅の整備状況

山形県内には、平成30年5月現在、21の道の駅が登録されていますが国道13号沿いに整備されている道の駅は数も少なく、山形市より南には道の駅が整備されていません。そのようなことから、安全・安心に走行するためには、当該地域に24時間利用できる駐車場やトイレなどの休憩機能が必要であると考えられます。



県内道の駅の整備状況

- 1 月山
- 2 河北
- 3 東回江
- 4 あつみ
- 5 上小川
- 6 いいで
- 7 むらやま
- 8 とよつ
- 9 山形
- 10 山形
- 11 白根
- 12 白根
- 13 白根
- 14 白根
- 15 白根
- 16 白根
- 17 白根
- 18 白根
- 19 白根
- 20 白根
- 21 白根



地域外への消費を減らすとともに、地域外からの消費を呼び込み、地域内で拡大させる好循環を生み出す道の駅を整備

裏面に続く

2. 道の駅「(仮称)蔵王」の基本コンセプト

①基本コンセプト

山形の魅力を発信し、人の流れを生み出す道の駅

①蔵王、そして山形の地域資源の魅力を発信し、人を呼び込むゲートウェイ機能を果たし、新たな人の流れを創出する空間

②周辺施設等の連携の要として道路利用者のみならず市民、そして周辺地域の住民が日常的に集い、山形を体感しながら心地よくつろぎ交流できる空間

日常的に訪れることができるコンテンツを提供することで、新たな人の流れをつくります。
山形は、モノづくり・デザイン・食文化などクリエイティブな要素が豊富で、他市町とも連携を図り、新たな価値を見出し、地域の魅力としてPRしていくとともに、それらに触れながらつろげる空間を整備します。

②利用者ターゲット

★シンボリックターゲット★

首都圏からの観光客

山形市への宿泊者の居住地等をみると、首都圏からの割合が圧倒的に多いことや今後予定される東北中央自動車道の整備を勘案し首都圏から多くの観光客を呼び込むことを目指します。

★デイリーターゲット★

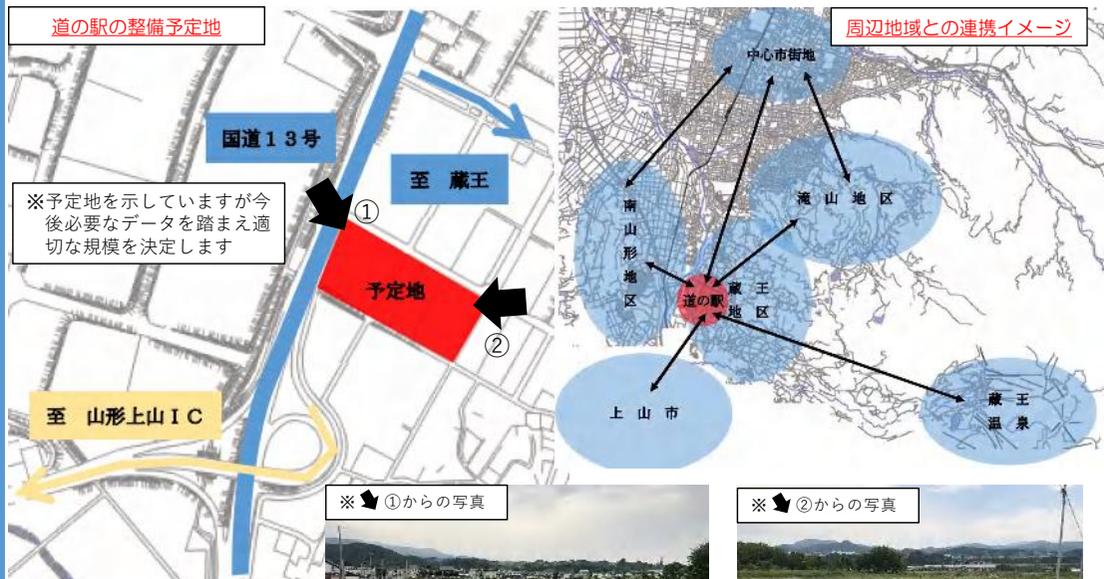
30 km圏内の村山地域の住民
子育て世代であるファミリー層

観光ニーズが、団体型から少数型へと変化している中、多くの子連れ家族が山形市に訪れています。
県内をみても、村山地域の方が買い物やレジャーを目的に山形市を訪れる方の割合が非常に多いことから、そういったニーズに対応することを目指します。

3. 道の駅「(仮称)蔵王」の整備計画の検討

道の駅の整備予定地

周辺地域との連携イメージ



※ ①からの写真



※ ②からの写真



4. 道の駅「(仮称)蔵王」の導入機能の検討

①休憩機能

- 誰もが停めやすい十分な容量の駐車場
- 明るく清潔で快適に利用できる十分な容量のトイレ
- 誰でも気軽に休むことができる休憩スペース

- ・自動二輪車の他、ロードバイク利用者等も利用しやすい駐輪場
- ・パウダールーム等のスペース確保など利用しやすい快適なトイレ
- ・山形のモノづくり文化など山形の魅力に触れながら空間を楽しみ、つろぐことができる場所

③地域連携機能

- 蔵王への誘客を促進させる機能
- 山形の食を体験できる機能
- 市民や地域外の人が集い交流できる機能
- 山形の物産販売機能

- ・冬期間でも安心して蔵王へ訪れることができるよう道の駅を核とした新たな交通体系の構築
- ・地元の食材を使用したカフェ・レストランの整備
- ・子育て世帯でも安心してつろいで食を体験できる空間
- ・食材を目で観て楽しみ、購入し、調理ができる空間
- ・道の駅の目玉となる商品の製造・販売
- ・マルシェなど人々が交流できる開放的な空間

④交通結節機能

- 新たな人の流れを創出する拠点
- パークアンドライドの拠点

- ・高速バスや路線バスとの連携を図ることで利用者の利便性を向上させ、蔵王をはじめとする市内各地への誘客促進
- ・蔵王や首都圏等へのアクセスを勘案したパーク&ライド機能の整備

⑤インバウンドに対応する機能

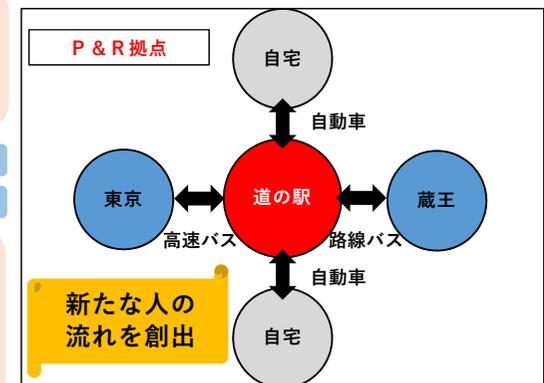
⑥その他の機能

- ・訪日外国人旅行者の視点に立った案内サービスやWi-Fi環境等の整備
- ・英語で対応できるカフェ・レストランなど訪日外国人旅行者のニーズに合ったサービスの提供
- ・災害時等に備え必要な防災機能の整備
- ・ユニバーサルデザインやSNS等で投稿したくなるようなデザインの検討

②情報発信機能

- 山形市の南の玄関口として地域全体の総合的な観光案内拠点
- 蔵王をはじめとする山形の魅力発信拠点
- 安全情報の発信拠点
- 道路利用者が安全な走行ができるよう道路情報等の発信拠点

- ・観光地などで非日常を味わうだけでなく、日常の暮らしの中にある地域の習慣などを体験できるように、来訪者のニーズにあったサービスの提供
- ・体験型観光施設等と連携し、すぐに体験できるプランを来訪者に提供できるように仕組みの構築
- ・単なる情報発信だけでなく、イベント等を通じた山形の魅力の発信
- ・蔵王山の火山活動や道路情報など安全に滞在、走行ができるよう適切な情報発信



5. 道の駅「(仮称)蔵王」の整備・管理・運営手法の検討

整備にあたっては、「道の駅登録・案内要綱」等の要件を整理し適切な整備手法を選択していきます。特に、道の駅は、運営の占める割合が多い施設で民間事業者のノウハウを発揮できる施設であるため、十分に民間事業者の意見を反映できるよう整備を進めていきます。